

特集「ソフトウェア工学」の編集にあたって

石尾 隆^{1,a)}

ソフトウェア工学は、よいソフトウェアをつくる効果的な方法を考える学問分野である。特に近年はソフトウェアを取り巻く環境の変化が速く、産業界の課題をタイムリーに取り上げ、理論研究に基づく新しい技術や知見を生み出すためには、理論から応用まで幅広い研究を産学で緊密に連携して実施していく必要がある。

情報処理学会ソフトウェア工学研究会では、シンポジウム、ワークショップ、研究発表会等を主宰し、ソフトウェア工学に携わる産学の研究者や、ソフトウェア開発に携わる技術者・実務者等へ広く参加を呼びかけ、互いの経験や知見を議論・共有する場をこれまで提供してきた。本特集号もこれらの活動の一環として企画したものである。

本特集号は、ソフトウェア工学に関連した研究開発全般について、最新の研究成果や開発事例に基づく知見等を幅広く掲載することを基本方針とした。さらに、通常の論文投稿だけでなく、ソフトウェア工学研究会主催のソフトウェアエンジニアリングシンポジウム 2019 (SES2019) に投稿された論文を改訂し投稿することを推奨した。これにより、シンポジウムの査読結果が反映された質の高い論文を多く集め、論文誌を通じて優れた研究成果を社会へ迅速に発信することを目指した。シンポジウムとのこのような連携は、2011 年から継続して行っている取り組みである。

本特集号には 20 編の論文投稿があり、ソフトウェア工学の専門家による厳正な査読と編集委員会での慎重な審査を経て、最終的に和文論文 10 編、英文論文 2 編の合計 12 編を採択した (採択率 60.0%)。編集委員会では情報処理学会の論文査読方針に沿い、改訂によって採録可能となる見込みのある論文に対しては可能な限り「条件付採録」を選択し、採録のための条件を明確に示すことで論文の質を高めるように努めた。また、惜しくも採録には至らなかった論文に対しても、今後の改訂の指針となるような意見を明示するよう努めた。コメントを参考に研究を発展させ、改訂・再投稿されることを期待している。

採録された論文は、要求分析や設計、テスト、デバッグ等のソフトウェア開発にともなう様々な作業に対する支援技術の提案と、開発者の実際の活動に対する実証的な分析

の報告に関する優れた研究である。

最後に、本特集号に投稿いただいた著者の皆様、多忙にもかかわらず丁寧な査読や議論にご尽力いただいた特集号編集委員と査読者の皆様、そして本特集号の機会を与えていただいた論文誌ジャーナル編集委員会に深く感謝する。

「ソフトウェア工学」特集号編集委員会

- 編集委員長

石尾 隆 (奈良先端科学技術大学院大学)

- 編集委員 (五十音順)

阿萬裕久 (愛媛大学), 石川冬樹 (NII), 位野木万里 (工学院大学), 伊原彰紀 (和歌山大学), 鶴林尚靖 (九州大学), 大平雅雄 (和歌山大学), 小川秀人 (日立製作所), 岡野浩三 (信州大学), 亀井靖高 (九州大学), 菊地奈穂美 (沖電気工業), 岸 知二 (早稲田大学), 権藤克彦 (東京工業大学), 斎藤 忍 (日本電信電話株式会社), 沢田篤史 (南山大学), 白銀純子 (東京女子大学), 高田真吾 (慶應義塾大学), 田原康之 (電気通信大学), 丹野治門 (日本電信電話株式会社), 角田雅照 (近畿大学), 野田夏子 (芝浦工業大学), 長谷川勇 (スクウェア・エニックス), 花川典子 (阪南大学), 林晋平 (東京工業大学), 福田浩章 (芝浦工科大学), 丸山勝久 (立命館大学), 水野 修 (京都工芸繊維大学), 門田暁人 (岡山大学), 吉田則裕 (名古屋大学), 鷺崎弘宜 (早稲田大学)

¹ 奈良先端科学技術大学院大学
Nara Institute of Science and Technology, Ikoma, Nara 630-0192, Japan

^{a)} ishio@is.naist.jp